

# サービス通信

No. F A S - 0 2 6

富士重工業株式会社

発行 45 年 4 月 29 日

航空機技術本部

1. 標 題：飛行規程の改訂
2. 適用機体：F A - 2 0 0 シリーズの機体で製造番号 # 1 2 ~ # 7 8, # 8 0 に  
該当する機体
3. 適用度：要望事項
4. 目 的：補助燃料ポンプの冷却が改善され，補助燃料ポンプの耐久性が向上  
(理由) した。さらに飛行安全を図る為ポンプ使用法を変更する。
5. 指 示：F A - 2 0 0 - 1 6 0 型および F A - 2 0 0 - 1 8 0 型飛行規程に  
下記の様に補助燃料ポンプの使用法を追加する。
  - 1 ) 4 - 6 離陸前点検において  
〃 (3)補助燃料ポンプスイッチ「接」を確認とし旧の(3)を(4),  
(4)を(5), …… (10)を(11)とする。
  - 2 ) 4 - 8 上昇において  
〃 (3)対地約 3 0 0 f t で補助燃料ポンプスイッチを「断」とす  
る〃を追加する。
  - 3 ) 4 - 1 3 着陸において  
〃 (1)補助燃料ポンプスイッチ「接」とし旧の(1)を(2), (2)を(3),  
(3)を(4)とする。
  - 4 ) 4 - 1 5 着陸後において  
〃 (1)補助燃料ポンプスイッチ「断」〃とし旧の(1)を(2), (2)を  
(3), ……(4)を(5)とする。

飛行規程の修正は，本サービス通信の 1 3 項に従つて行う。
6. 実施時期：このサービス通信受領後最初の耐空証明検査時

7. 承認：航空局承認対象外
8. 所要部品：なし
9. 特殊工具：なし
0. 重量重心：変化なし
1. 準拠資料：1) 富士重工式FA-200-160型飛行規程内容変更に係る承認書第U-44号  
2) 富士重工式FA-200-180型飛行規程内容変更に係る承認書第U-45号
2. 所要工数：僅少
3. 作業手順：本サービス通信による飛行規程の諸修正は耐空証明検査時担当航空機検査官の指示により行う。
  - 1) 本サービス通信による飛行規程の修正は本サービス通信に添付されている改訂頁と差し換える。
    - (1) FA-200-160型飛行規程の差し換え頁  
20, 21, 22, 23頁
    - (2) FA-200-180型飛行規程の差し換え頁  
20, 21, 23頁
  - 2) 飛行規程の1頁(TCF-50-6-4)頁一覧表において
    - (1) 頁-日付欄の下記に示す頁の日付を耐空証明検査の日付に変更する。
      - a) FA-200-160型の飛行規程  
20, 21, 22, 23, I, II A頁
      - b) FA-200-180型の飛行規程  
20, 21, 23, I, II A頁
    - (2) 本頁の右上の航空局承認欄の日付を耐空証明検査の日付に

変更する。

3 ) 飛行規程のⅡ A 頁 ( T C F - 5 0 - 6 - 2 A ( 2 ) ) 訂正表 ( 2 )

( 耐空証明変更用 ) において

- ( 1 ) 訂正番号欄に訂正番号を記入する。
- ( 2 ) 日付欄に耐空証明検査の日付を記入する。
- ( 3 ) 訂正頁欄に訂正頁を記入する上記 2 ) ( 1 ) 参照
- ( 4 ) 内容欄に「 4 - 6 , 4 - 8 , 4 - 1 3 および 4 - 1 5 項  
に補助燃料ポンプの使用を追加する 」と記入する。
- ( 5 ) 本頁の右上の航空局承認欄の日付を耐空証明検査の日付  
に変更する。

4 ) 本サービス通信により差し換えた各改訂頁の修正した部分の  
右側の欄外に改訂番号を記入する。又、各改訂頁の右上の航  
空局承認欄に耐空証明検査の日付を記入する。

5 ) 以上飛行規程の修正完了後、航空機検査官の訂正印を受ける。

起すほど急激に操作してはならない

### 4-6 離陸前点検

- (1) 可動凡防 —— 「ロック」(LOCK)を確認
- (2) 燃料コック —— 「用」(ON)を確認
- (3) 補助燃料ホーススイッチ —— 「控」(ON)を確認
- (4) 昇降舵フラ —— 離陸位置(中立)を確認
- (5) 方向舵トリムフラ —— 「右」(R)
- (6) ミックスエアレバー —— 「濃」(RICH)を確認
- (7) 操縦装置 —— 作動の自由及び操縦反応の正常を点検
- (8) フラップハンドル —— 作動確認後「0」又は「15」にセットする
- (9) 各計器の指度 —— 適正かどうか確認
- (10) 安全ベルト —— 締まっているか再点検
- (11) パーキングブレーキ —— は付(パーキングローキ)に押込まない

### 4-7 離陸

- (1) 滑走路に正対しブレーキをふみ、回転を1400~1500rpmとして計器を交換する
- (2) ブレーキをはなし除々にスピードをあげて加速する
- (3) 方向保持は容易である。約55mph IAS (48kt IAS)で離陸操作を行い約72mph IAS (63kt IAS)で浮揚する。  
(註) 此列に示す速度は、最大全備重量での値を示す。他の形態については別表5-1参照のこと。
- (4) 初期上昇速度 80<sup>mph</sup> IAS (70kt IAS)で上昇する

### 4-8 上昇

- (1) 地上の障害物を越し、高度約200ftに達したらフラップを上げて最良上昇速度の95 mph IAS (82kt IAS)に加速し上昇姿勢をとる

- (4) キャブヒーター点検 —— キャブヒーターハンドルを操作して機能を確認する。
- (5) ミフスチユア点検 —— ミフスチユアレバーを操作して機能を確認する。
- (6) アイトル点検 —— スロットルバ「閉」(CLOSED) (- 一杯引き) にして 650 ~ 750 RPM にするのを点検する。
- (7) 最大出力点検 —— スロットルバ「開」(OPEN) (+) 最大回転数か プロペラ 7656 の場合 2350 ~ 2450 RPM、プロペラ 7662 の場合 2180 ~ 2340 RPM にするのを点検する。
- (8) 加速及び減速点検  
スロットルを急激に操作しエンジンの加速減速機能を点検せよ。ただし逆火、回転不調、息づき等と起動時の急激な操作は行なうな。

### 4-6 離陸前点検

- (1) 可動風防 —— 「ロック」(LOCK) を確認。
- (2) 燃料コック —— 「開」(ON) を確認。
- (3) 補助燃料ポンプスイッチ —— 「起」(ON) を確認。
- (4) 昇降舵タブ —— 離陸位置(中立) を確認。
- (5) 方向舵トリムタブ —— 「右」(R)
- (6) ミフスチユアレバー —— 「濃」(RICH) を確認。
- (7) 操縦装置 —— 作動、自由及び操舵反応の正常を点検。
- (8) フラップハンドル —— 作動確認後「0」又は「15°」にセットする。
- (9) 各計器の指度 —— 適正かどうかが確認。
- (10) 安全ベルト —— 締まっているかを再点検。
- (11) パーキングブレーキ —— ばね(パーキング)を一押しに押込む。

### 4-7 離陸

- (1) 滑走路と正対しブレーキを小計器 回転数 1500 ~ 1600 RPM とし計器を点検する。
- (2) ブレーキをはずす後すぐにスロットルを開いて加速する。

富士式FA-200-180型  
航空用エンジン

- (2) 上昇速度は約1mH/2000ftの割合で減速と長し。  
(別表5-3参照)又、ミックスアップレバーは5000ftを目盛  
約7を目盛とし、必要に応じて調整する。
- (3) 対地約300ftで補助燃料ポンプを「断」にする。

**注意** 高温気象時 燃圧の振巾が2PSI以上の  
時は補助燃料ポンプスイッチを「接」(ON)にせよ。

4-9 巡航  
巡航速度の選定は重量、高度、飛行距離、天候  
時間等により決定される  
巡航状態における出力と航続距離、航続時間、関  
係は標準重量(1000kg)と対して次の通りである。(別表  
5-4参照)

出力%	MP inHg	真速度		航続距離 mBS	航続時間 hrs
45	16.9	98 mph	85 kt	748	7.63
50	18.2	106	92	730	6.87
55	19.5	113	98	698	6.17
60	20.8	119	103	660	5.56
65	22.1	125	109	614	4.92
70	23.4	131	116	570	4.40

(注) ミックスアップ 目盛約7 回転 2200 rpm  
45分間余裕燃料

**注意**

高温気象時、燃圧の振巾が2PSI以上の時は  
補助燃料ポンプスイッチを「接」(ON)にせよ。

**注意**

エアフィルターが凍結により発動機の息づきが  
生じたと思われる時はキャブヒーターノブを  
引くこと。

- (3) 方向保持は容易である約55mph IAS (48 kt IAS) で離陸操作を行って約66 mph IAS (57 kt IAS) で誘導する。  
 (注) 此処に示す速度は、標準形態 (1000kg フラップ15°) の値を示す。  
 他の形態については別表5-1を参照のこと。
- (4) 初期上昇速度 75 mph IAS (65 kt IAS) で上昇する。

#### 4-8 上昇

- (1) 地上の障害物を越え対地約200ft以上達したフラップを上げて最高上昇速度の85mph IAS (74 kt IAS) に加速し上昇姿勢をとる。
- (2) 上昇速度は約1"ph/2000ftの場合を減速し良好。(別表5-3参照) 又、ミクスチャーレバーは5000ftを目盛約6を目盛とし必要に応じて調整する。
- (3) 対地約300ftで補助燃料ポンプスイッチを断 (OFF) する。

#### 4-9 巡航

巡航速度の選定は重量、高度、飛行距離、天候、時間等により決定される。  
 巡航状態における出力と航続距離、航続時間の関係は標準空量 (1000kg) に対して次の通りである。(別表5-4参照)

出力 %	回転数		真速度		航続距離 miles	航続時間 hrs
	70V5 76-56	70V7 76-62				
45	2080	1970	88 mph	77 kt	742	8.43
50	2190	2070	100	87	745	7.45
55	2280	2160	106	92	710	6.70
60	2355	2235	112	97	662	5.91
65	2430	2300	117	102	616	5.26
70	2490	2370	122	106	568	4.67

(注) ミクスチャー 目盛約6  
45分間余裕燃料

### 4-10 曲技

- (1) 安全開始速度は Z-7-2 参照のこと。
- (2) 曲技開始前に必ず補助燃料ポンプスイッチを「接」(ON)にする。
- (3) 曲技中エンジン回転数に注意し 2700 RPM を越えないようにする。
- (4) 曲技開始前に必ず水平儀と定針儀を「CAGE」とする。

### 4-11 降下

- (1) 降下中にシリンダ温度が過冷却(100°C)にならないように注意すること。
- (2) ミクスタエアレバーを「濃」(RICH)にする。

### 4-12 着陸前点検

- 場周経路上において次の点検を実施する。
- (1) ミクスタエアレバー — 「濃」(RICH)の確認。
  - (2) 燃料コック — 「南」(ON)確認。
  - (3) 安全ハルト — 緊縛する。
  - (4) ホフキセー — 必要に応じて使用する。

### 4-13 着陸

- (1) 補助燃料ポンプスイッチ — 「接」(ON)。
- (2) 最終進入旋回までに フラップ 15° 90 MPH IAS (78 kt IAS) にセットする。
- (3) 最終進入旋回後 フラップを 35° 80 MPH IAS (70 kt IAS) で降下する。
- (4) 約 57 mph IAS (50 kt IAS) で主車輪を接地する。



- (3) ヒッチレバー ————— 「増」(INC)
- (4) 安全バルブ ————— 閉鎖する
- (5) キーフューズ ————— 必要に応じて使用する

#### 4.13 着陸

- (1) 補助燃料ホックスイッチ ————— 「稼」(ON)
- (2) 最終進入旋回までに フラップ 15°, 90mph IAS (78kt IAS) にセットする。
- (3) 最終進入旋回後フラップ 35°, 80mph IAS (70kt IAS) で降下する
- (4) 約 63mph IAS (55kt IAS) で主車輪を接地する

#### 4.14 着陸復行

- (1) スロットルレバー ————— 「開」(OPEN)
- (2) フラップを静かに「35°」から「15°」にしてトリムを調整する。
- (3) 昇降能トリムタブを「中立」に戻す。
- (4) 方向舵トリム ————— 「右」(R) にセット。
- (5) 初期上昇速度 約 80mph IAS (70kt IAS) にセットする。
- (6) 安全高度に達したならば静かにフラップを「0°」とし、最良上昇速度の 95mph IAS (82kt IAS) に増速しトリムを行なう。

#### 4.15 着陸後

着陸後次の真検をする。

- (1) 補助燃料ホックスイッチ ————— 「断」(OFF)
- (2) フラップハンドル ————— 「0°」
- (3) 昇降能トリムタブ ————— 「0°」
- (4) 方向舵トリムタブ ————— 「左」(L)
- (5) 水準儀、定針儀 ————— 「CAGE」

#### 4.16 停止

前車輪を真方向に直すように停止し、次の手順を行う。

### 4.14 着陸後行

- (1) スロットルレバー — 「開」(OPEN)
- (2) フラップを静かに「35」から「15」にする。
- (3) 昇降舵トリムタブを「中立」に戻す。
- (4) 方向舵トリムタブ — 「右」(R)にセット。
- (5) 初相上昇速度 約75mphIAS (65kt IAS)にセットする。
- (6) 安全高度に達したとき静かにフラップを「0」とし、最良上昇速度の87mphIAS (74kt IAS)に増速しトリムを行なう。

### 4.15 着陸後

着陸後次の点検をする。

- (1) 補助燃料ポンプスイッチ — 「断」(OFF)
- (2) フラップハンドル — 「0」
- (3) 昇降舵トリムタブ — 「0」
- (4) 方向舵トリムタブ — 「左」(L)
- (5) 水平儀 定針儀 — 「CAGE」

### 4.16 停止

前車輪を真すべになるように停止し 次の手順を行う。

- (1) パーキングブレーキ — ロックする。
- (2) エンジン計器 — すべて制限内にあるか。
- (3) 冷却還転 — 冷却還転を行い停止する。
- (4) ミクスターレバー — 「断」(CUT-OFF)
- (5) プロペラが完全に止まってからスロットルレバー — 「閉」(CLOSED)
- (6) 不必要な電気系統のスイッチ及び点火スイッチ — 「断」(OFF)
- (7) 燃料コック — 「閉」(OFF)
- (8) マスタースイッチ — 「断」(OFF)

### 4.17 機体を離れる前

- (1) 操縦輪を固定する。
- (2) 車輪止めを確実に引いてからパーキングブレーキを解除する。